

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 2 部門第 2 区分

【発行日】平成 19 年 4 月 12 日 (2007.4.12)

【公開番号】特開 2005-262250 (P2005-262250A)

【公開日】平成 17 年 9 月 29 日 (2005.9.29)

【年通号数】公開・登録公報 2005-038

【出願番号】特願 2004-76261 (P2004-76261)

【国際特許分類】

**B 2 3 K 9/09 (2006.01)**

**B 2 3 K 9/173 (2006.01)**

**B 2 3 K 9/23 (2006.01)**

**B 2 3 K 103/14 (2006.01)**

【F I】

B 2 3 K 9/09

B 2 3 K 9/173 C

B 2 3 K 9/23 C

B 2 3 K 103:14

【手続補正書】

【提出日】平成 19 年 2 月 22 日 (2007.2.22)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

溶接電流にピーク電流期間とベース電流期間を交互に配するパルスミグ溶接方法において、ピーク電流期間からベース電流期間に移行する間に少なくとも 1 つのピーク電流とベース電流の中間値を持つ中間電流期間を設け、それぞれの電流期間が設定電流値の  $\pm 20\%$  の電流値である期間が少なくとも  $0.1 \text{ msec}$  以上あり、少なくとも 1 つの中間電流値が、 $I_d = \text{ピーク電流値} - \text{ベース電流値}$  としたときに  $0.3 I_d$  以上  $0.5 I_d$  以下の条件を満たすパルスミグ溶接方法。

【請求項 2】

溶接電流にピーク電流期間とベース電流期間を交互に配するパルスミグ溶接方法において、ピーク電流期間からベース電流期間に移行する間にピーク電流とベース電流の中間電流値を複数持つ中間電流期間を設けて溶接を行うパルスミグ溶接方法。

【請求項 3】

複数の中間電流値の少なくとも 1 つは、 $I_d = \text{ピーク電流値} - \text{ベース電流値}$  としたときに  $0.3 I_d$  以上  $0.5 I_d$  以下の条件を満たす請求項 2 記載のパルスミグ溶接方法。

【請求項 4】

Ti 又は Ti 合金を溶接する請求項 1 から 3 のいずれか 1 項に記載のパルスミグ溶接方法。